

ろうさいの森

Vol. 175 4月号



撮影：病院長 森田 明夫

整形外科 入院診療・救急応需再開のお知らせ

東京労災病院では、2024年5月以降長く入院・救急患者応需を中断しておりましたが、2025年4月1日付をもって7名の常勤医が赴任し、全ての業務を再開しました。

大変長い間、ご心配とご不便をおかけいたしました。今後精一杯丁寧で真摯な医療に取り組んで参ります。

診療内容：

診療疾患：整形外科一般、外傷、関節疾患、手の外科、脊椎の外科、骨粗鬆症、リウマチ疾患等

外来は週5日 午前・午後、救急は365日対応します。

また合わせて関節センター、四肢外傷センター、手の外科センターを開設しました。

当院整形外科ホームページでもご案内しております→



ひだまり「健康・楽しみ・交流の場」を開催します

「東京労災病院で『健康・楽しみ・交流』をテーマに誰でも集まれる場所が始まります。是非、お気軽にお越しください。お待ちしております。

ひだまり

健康・楽しみ・交流の場

対象：地域住民（指定なし）どなたでもお越しください。

日時：毎月第三火曜日

15時30分～16時30分

場所：東京労災病院3階 大会議室

内容：健康に関する講義、レクリエーションや体操など

お問合わせ：03-3742-7301

東京労災病院

中央リハビリテーション部

【はたらく乗り物大集合 in HEIWAJIMA】に参加しました

3月22日（土）・23日（日）、BIGFUN平和島で行われた「はたらく乗り物大集合！」に参加しました。2日間で400人を超える方々が当院のブースを訪れ、初期救急の模擬体験や、お子さんが子供用白衣を着用して写真撮影するなど大いに盛り上がりました。



病院探検シールラリーを開催いたしました

3月30日（日）、『こども食堂moi!』さんが、当院において「病院たんけんシールラリー」を開催しました。今回は、1～2階の各外来を周り、シールを集めるとガチャガチャができるという企画でたくさんのこどもたちが参加しました。また、みんなでいっしょに学習したり、キッチンカーが提供するお弁当を食べたりと、楽しい時間を過ごしているようでした。



外来担当医表は裏面へ

独立行政法人労働者健康安全機構東京労災病院
〒143-0013大田区大森南4-13-21TEL03-3742-7301

発行人 木村 幸司

編集人 安部 慎平

R7. 4. 1発行

循環器科

副院長 循環器科部長 吉玉 隆

『循環器』というと、皆様はどういう印象をお持ちでしょうか？何が循環するのだろうか、難しそうとか、そういう印象をお持ちの方も多いかと思います。簡単に言えば、血液が循環する器官を意味します。もちろん、それだと全臓器血液が循環していますので、全臓器が対象になりますが、循環器科は中でも、心臓と血管を対象にしています。

具体的には、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、心臓弁膜症、不整脈、心筋症、末梢血管（下肢の血管など）の狭窄・閉塞などが対象です。ただし、頭の血管は脳神経外科が、お腹の臓器の血管は放射線科が担当することが多いです。また、それらを予防する観点から、高血圧、脂質異常症（高コレステロールなど）、糖尿病などの治療も行っております。

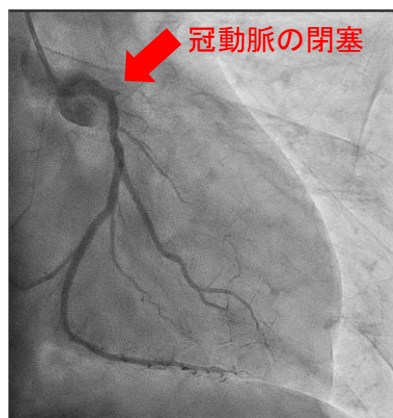
当院では、循環器疾患全般にわたって幅広く診療を行っており、心臓超音波（心エコー）装置、および、最新鋭の心・血管撮影装置をこれらの診療に役立てております。なかでも治療の緊急性を要する急性心筋梗塞や急性心不全、失神を伴うような徐脈などには、常に対応できるような体制をとっており、急性期治療を積極的に行っております。2016年8月から本格的に始まった、心房細動等の不整脈治療の一つであるカテーテルアブレーションも件数を伸ばしています。

令和6年度の主な検査としては、心臓超音波検査2,171例／年間、ホルター心電図474例／年間、施行しております。なお、当院には心臓血管外科は設置しておりませんので、手術が必要な場合には、東邦大学医療センター大森・大橋病院、東京ハートセンター、NTT東日本関東病院、川崎幸病院、イムス葛飾ハートセンターなどとの連携を取って対応しております。

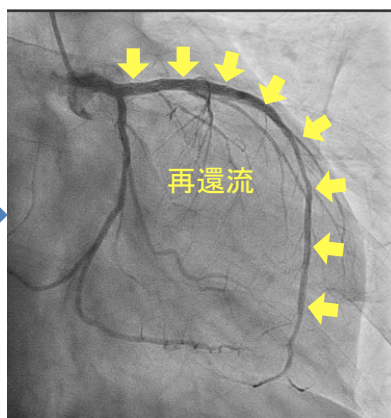
急性心筋梗塞について

【概要】 心筋に酸素と栄養を届けている『冠動脈』が閉塞して、心筋そのものが壊死してしまう病気です。病院で治療を受けても5-10%が亡くなると言われ、日本人の死因第二位とされています。

【症状】 突然の、締め付けられるような強い胸の痛み（主に胸の中央部～胸全体）や胸部の圧迫感が心筋梗塞の代表的な症状です。随伴症状として、肩や腕、首に痛みや歯の痛み、冷や汗や呼吸困難感を催す事があります。高齢の方や糖尿病があるとはっきりとした症状を示さない事があり注意が必要です。



治療前



治療後

【治療】 できるだけ早く閉塞した冠動脈を再還流させることが重要です。数時間以内に再還流させると、後遺症が低減されることが知られているので、当院では常に緊急でカテーテル治療が出来る体制をとっております。また、急性期治療の後には、心臓リハビリテーションなどを通して、再発予防の指導を行っております。

外科・消化器外科

院長補佐 消化器外科部長 小林 隆

『消化器外科』……どういった病気を診る“外科”か、みなさんご存じですか？

おおまかにいうと『消化器外科』とは消化器内科と同様に消化に関わる腹部の臓器の病気を中心に診療をおこなう診療科です。

あつかう臓器も消化器内科と同様、**食道から胃、小腸、大腸、肛門**といった食べ物の通り道である消化管に加えて、**胆のうやすい臓**といった食べ物の消化に関わる臓器、栄養を蓄え身体の毒素を解毒する役割をもつ**肝臓**まで幅広いです。

さらに、**鼠径ヘルニア**や**痔**など必ずしも“消化”にかかわらない病気もあついています。

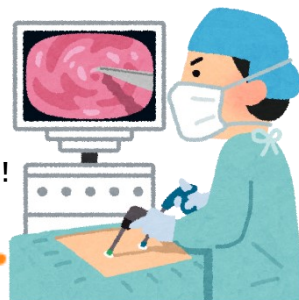
具体的には

- ・胃がん・大腸がん・肝臓がん・胆のう/胆管がん・すい臓がん、といった**悪性疾患**
- ・胆石/胆のう炎・急性虫垂炎・鼠径ヘルニア・腸閉塞・痔核/痔ろう、といった**良性疾患**や**腹部の救急疾患**

これらの疾患を主に手術で治療するのが消化器外科になります。また、手術だけではなく、患者さんの病態に応じて**抗癌剤**など**薬物治療**や**放射線治療**も様々な診療科と一緒に協力して行っています。

ご自身や身の回りの方で「手術を受けた方がよいのか」、それとも「経過観察でよいのか」といったことで悩まれている方がいらしたら、いつでも我々にご相談ください。

患者さんの希望を伺いながら、最も良い対応を一緒に考えていきましょう！



例えば……こんな時は『消化器外科』に相談してください！

- 脂っこい食事をすると背中が張ってきたり、みぞおちから脇腹が重苦しくなる
 - 人間ドックや健康診断で胆石を指摘されたけど痛くないのでそのままにしている
 - 以前、急性虫垂炎といわれたけど抗生剤で治ったのでそのままにしている
 - トイレにいったお尻を拭いたら血が付いたけど、しばらくしたら血がつかなくなったので“痔”だと思ってそのままにしている
 - なんとなく足の付け根が膨らんでいるような気がする
- ⇒ そのままにせず、われわれ消化器外科にご相談ください！
優しい外科医が笑顔でご相談にのります



ろうさいの森

Vol 176 5月号



撮影：病院長 森田 明夫

看護週間が始まります

看護週間とは、看護の心、ケアの心、助け合いの心を老若男女問わずだれの心にも育つことを目指し、活動する期間のことです。

これは「クリミアの天使」とも呼ばれ、病院・看護施設の創設・改善に努力し看護婦の教育制度を整えたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日が5月12日であったことに由来します。

そこで、当院では5月11日（日）から5月17日（土）を看護週間とし、職員の家族が描いた「家族の絵」や「心に残った看護エピソード」を正面玄関にて掲示いたします。ぜひ、ご覧ください。



昨年度の様子

大田区救急業務連携連絡協議会より表彰されました

令和7年4月25日（金）、救急業務への取り組みに対し、当院の谷口救急救命士へ大田区救急業務連携協議会より感謝状をいただきました。

当院としましては引き続き、地域医療の為に貢献してまいります。



外来担当医表は裏面へ

5月14日は病院設立の日

この度、東京労災病院は設立76周年を迎えることができました。

当院は昭和24年5月14日に開院した、全国の労災病院の中で2番目に誕生した歴史のある病院です。

開院当初は内科・外科の2診療科と病棟数21床でしたが環境の変化へ対応するため、二度の全面増改築等を踏まえ、現在では、28診療科までになりました。

これもひとえに皆様方のご支援の賜物と深く感謝しております。今後ともご愛顧のほどよろしくお願いいたします。

出張講座を行いました

令和7年4月24日（木）に大森南図書館にて出張講座を行いました。当院の検査技師が「血液健検査でわかること～検査データの見方～」について講演を行いました。ご参加いただいた皆様におかれましては、誠にありがとうございました。



～次回開催日程～
日 時：5月16日（金）14：00～
演 目：「認知症のための核医学検査」
場 所：大森南図書館
参加費：無料

腎代謝内科

腎代謝内科副部長 杉田 和哉

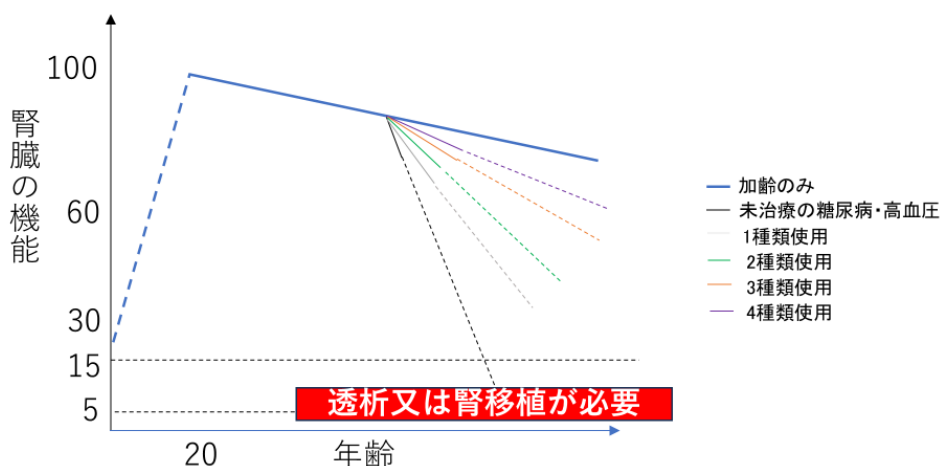
皆さんは「腎臓」という臓器に対してどのようなイメージをお持ちでしょうか？腎臓が果たす役割の中で最も重要なのは、体の中で発生した毒素を尿(おしっこ)から体外へ排出する事です。このように、主に尿からしか体の外へ排出できない毒素を、「尿毒素」と呼び、尿毒素を排出する能力が低下する現象を腎機能障害と呼びます。尿毒素がある程度溜っても人間の体は耐えられるようになっています。しかし、ある一線を越えて尿毒素が体に溜った場合、透析又は腎移植が必要です。透析や腎移植を受けている患者さん達に、1日でも長くお元気で生きていただく治療技術も勿論重要ですし、我々腎臓内科医は日々その技術を磨いています。しかし、一人でも多くの患者さんが透析や腎移植を受けなくても済む人生を送れるようにする治療が昨今ますます重要となっています。

人間の腎臓の機能は生後成長を続け、概ね20歳頃に人生におけるピークを迎えます。そこから、加齢と共に腎臓の機能も徐々に低下し、計算上120～140歳になると大多数の方が透析や腎移植が必要なレベルにまで腎臓の機能が低下するとされています。しかし、実際にはそこまで長寿な方はいらっしゃいませんので、あまり大きな問題にはなりません。これが健常な方における、腎臓の機能の推移となります。加齢による腎臓の機能の低下を食い止める術は、残念ながらありません。

慢性腎臓病について

加齢以外の原因でも腎臓の機能は低下してしまいます。腎臓の機能、つまり尿毒素を体の外に排出する機能が急激に低下する現象を「急性腎障害」と呼びます。その一方で、腎臓の機能が徐々に低下する現象を「慢性腎臓病」と呼びます。急性腎障害を来した場合に、通常は自覚症状が現れるので、患者さんご自身がお体の異変に気が付かないという事態はほぼありません。しかし、慢性腎臓病に関しては相当程度進行しても自覚症状はほぼ出現しません。慢性腎臓病を発見するには、採血や尿検査を受けていただく必要があります。

最後に、慢性腎臓病の治療についてです。慢性腎臓病患者さん達の中でも、腎臓の機能が低下する速度が速い集団が存在する事が分かっております。主に糖尿病や高血圧を有する方々が、それに該当します。腎臓の機能が低下する速度を穏やかにする作用を持つ薬剤が複数存在し、それらを組み合わせて治療する事でさらに効果が高まる事も最近分かってきております。皆さん、是非お声がけください。



整形外科

整形外科部長 金井 宏幸

整形外科は、体の動きに関係する臓器である運動器診療の専門家です。整形外科の担当する範囲は、関節疾患、外傷、手の外科、リウマチ、スポーツ障害、脊椎など広範囲に及びます。

当科では現在7名の医師(全員が整形外科専門医です)が、診断・治療にあたります。とくに関節センター(主に膝・股関節)、四肢外傷センター、手の外科センターの3分野には力をいれています。いずれの分野でも、十分な説明、低侵襲、高い安全性を心掛け、早期離床・早期機能回復に努めます。

また、急性期病院として手術を要する疾患・外傷を主たる治療対象としていますので、骨粗鬆症など慢性疾患で、薬物療法の対象患者さんで病状の安定された方は、近隣の医療機関と連携を図って治療を行っています。

思いやりの気持ちをもって医療に取り組むためには、患者さん、同僚、スタッフとのコミュニケーションを大事にすることが非常に重要であると考えています。「ここで診てもらい、治してもらってよかった」と満足していただき、そして笑顔を取り戻す医療提供を目標としています。

以下に手術前後の状態の変化をしめす代表例を載せています。

関節センター

変形性股関節症



痛み・関節が動きにくい
歩行がづらい
旅行や外出もできない



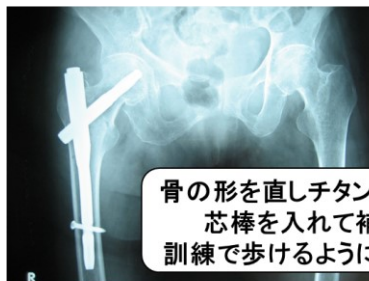
痛みがない
関節がよく動く
日常生活に支障がない

四肢外傷センター

大腿骨転子部骨折



大腿骨の付け根が折れて
曲がっている
痛くて座ることもできない



骨の形を直しチタン合金の
芯棒を入れて補強
訓練で歩けるようになった

手の外科センター

デュピュイトラン拘縮



手のひらにこぶ
指がのびない
物を握りにくい



手のひらがすっきり
指がのびた
日常生活に支障ない

ろうさいの森

Vol 177 6月号



撮影：病院長 森田 明夫

第1回ひだまり「健康・楽しみ・交流」の場を開催しました

令和7年5月20日に、『健康・楽しみ・交流』をテーマに、誰でも集まれる場所『ひだまり』の第1回目を開催しました。当院のリハビリスタッフによる「いつまでも若々しくいるための健康体操」をお越しいただいた参加者の皆様と行いました。



～次回開催～
「自分の体力を知ろう！身体測定」
日 時：6月17日（火）
15：30～16：30
場 所：東京労災病院 3階 大会議室
参加費：無料



京急グループと健康推進の取組を行っています

京急グループと東京労災病院で連携して健康推進の取組を行っています。東京労災病院は、これまでも京急グループと連携して地域の健康増進の普及を目指した活動を行ってきました。

今回は、脳神経外科医である森田院長の監修のもと初のコラボレーション弁当を作りました。今後の取組も引き続きお知らせしていきます。



出張講座を行いました

令和7年5月16日（金）に大森南図書館にて出張講座を行いました。当院の診療放射線技師が「認知症のための核医学検査」について講演を行いました。ご参加いただいた皆様におかれましては、誠にありがとうございました。

～次回開催日程～
日 時：6月12日（木）14：00～
演 目：「糖尿病ってどんな病気」
場 所：大森南図書館
参加費：無料



消化器内科

院長補佐 消化器内科部長 西中川 秀太

消化器内科は消化管(食道、胃、十二指腸、小腸、大腸)と肝臓、胆嚢、膵臓などの多くの臓器を診る診療科です。疾患は胃潰瘍、腸炎や肝炎、胆嚢炎などの良性疾患から胃がん、大腸がん、膵がんなどの悪性疾患まで多岐にわたります。消化器疾患全般にわたって安全性を重視しつつ、迅速で適切な対応を心がけています。

当科では5名の学会専門医と2名の専攻医が外来・入院・救急・内視鏡検査・超音波検査など、広く担当しています。新たな機器・手技の導入を積極的に行い、定期的な勉強会で知識のアップデートを行っています。

また、消化器外科や放射線科などの他科との連携も重要になります。当院では消化器内科と消化器外科の連携を密にするために「消化器センター」を設置し定期的にカンファレンスを行い治療方針を決定しています。

消化器疾患は腹部の違和感などの言葉で表しにくい症状や、便秘異常など経過の長い症状で困ることも多い領域ですので、気になることがありましたら消化器内科を受診ください。

2023年に最新の内視鏡システムを導入しました。鎮静内視鏡を希望される患者様が増えており、検査後の安静スペース、モニターを増設し対応しています。

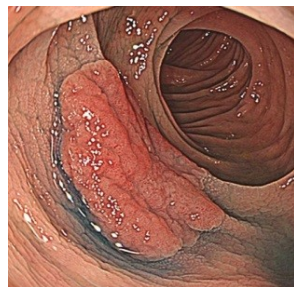
また、経鼻内視鏡を導入しており、苦痛が少ないため大変好評をいただいています。



大腸がんについて

- ・大腸がんは年々増加しており、部位別死亡数は、**男性では肺がんに次いで2位、女性では1位です。**
- ・予防法は確立していませんが、食事療法(カロリーを控える、食物繊維を多くとる、アルコールを控えめにする)と適度な運動が有効とされています。
- ・早期発見、早期治療を行えば予後は比較的良好です。
Stage0、Stage1の大腸がんの5年生存率は90%以上です。

早期大腸がん



- ・**早期発見には大腸癌検診(便潜血検査)が有用です。**検診で陽性になったら、大腸内視鏡検査を受けましょう。
- ・それ以外にも
①便に血が混じる。②血液検査で貧血がある。③便秘異常がある。④ご家族に大腸がんの方がいる。⑤体重が減っている。
これらに当てはまる方も大腸内視鏡検査を受ける必要があります。ご心配な症状があれば消化器内科を受診ください。



外科・消化器外科

院長補佐 消化器外科部長 小林 隆

『消化器外科』……どういった病気を診る“外科”か、みなさんご存じですか？

おおまかにいうと『消化器外科』とは消化器内科と同様に消化に関わる腹部の臓器の病気を中心に診療をおこなう診療科です。

あつかう臓器も消化器内科と同様、**食道から胃、小腸、大腸、肛門**といった食べ物の通り道である消化管に加えて、**胆のうやすい臓**といった食べ物の消化に関わる臓器、栄養を蓄え身体の毒素を解毒する役割をもつ**肝臓**まで幅広いです。

さらに、**鼠径ヘルニア**や**痔**など必ずしも“消化”にかかわらない病気もあついています。

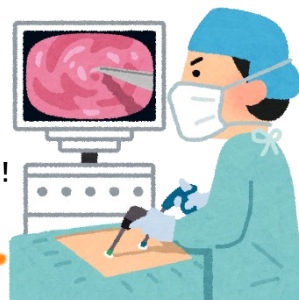
具体的には

- ・胃がん・大腸がん・肝臓がん・胆のう/胆管がん・すい臓がん、といった**悪性疾患**
- ・胆石/胆のう炎・急性虫垂炎・鼠径ヘルニア・腸閉塞・痔核/痔ろう、といった**良性疾患**や**腹部の救急疾患**

これらの疾患を主に手術で治療するのが消化器外科になります。また、手術だけではなく、患者さんの病態に応じて**抗癌剤**など**薬物治療**や**放射線治療**も様々な診療科と一緒に協力していています。

ご自身や身の回りの方で「手術を受けた方がよいのか」、それとも「経過観察でよいのか」といったことで悩まれている方がいらしたら、いつでも我々にご相談ください。

患者さんの希望を伺いながら、最も良い対応を一緒に考えていきましょう！



例えば……こんな時は『消化器外科』に相談してください！

- 脂っこい食事をすると背中が張ってきたり、みぞおちから脇腹が重苦しくなる
 - 人間ドックや健康診断で胆石を指摘されたけど痛くないのでそのままにしている
 - 以前、急性虫垂炎といわれたけど抗生剤で治ったのでそのままにしている
 - トイレにいったお尻を拭いたら血が付いたけど、しばらくしたら血がつかなくなったので“痔”だと思ってそのままにしている
 - なんとなく足の付け根が膨らんでいるような気がする
- ⇒ そのままにせず、われわれ消化器外科にご相談ください！
優しい外科医が笑顔でご相談にのります



ろうさいの森

Vol. 179 2025年8月号



えぞにゅう@礼文島 病院長 森田 明夫 撮影

第3回ひだまりを開催しました

7月15日（火）ひだまり「健康・楽しみ・交流の場」を開催しました。

■ 食事管理で熱中症を予防しよう

当院の管理栄養士より、水分補給だけでなく、塩分や栄養バランスを意識した食事の重要性や、暑い時期でも無理なく食べられるメニューの工夫について紹介がありました。

■ ビー玉アートで彩るオリジナルうちわ作り

絵の具をつけたビー玉を転がして模様を描く「ビー玉アート」で、オリジナルのうちわを作成しました。

～次回開催日程～

「肩Reborn(肩のお話し)」
「楽に動かそう！肩まわりの体操」

日 時：8月19日（火）
15：30～16：30
場 所：東京労災病院3階 大会議室
参加費：無料 お気軽にご参加ください。

出張講座を行いました

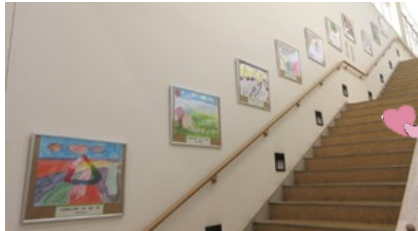
7月10日（木）に大森南図書館にて出張講座を行いました。当院の薬剤師による「糖尿病と注射薬～薬剤師として伝えたいこと～」について講演を行いました。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。

～次回開催日程～

日 時：8月7日（木）14：00～
演 目：「転倒予防 今日からできる
転ばないカラダづくり」
場 所：大森南図書館 参加費：無料

ホスピタルアートを 展示しました

大森第四小学校、大森第一中学校の生徒さんが新たに制作した絵画、水墨画、鉛筆デッサン、習字を展示しております。1階総合受付前の階段壁面、2階廊下に展示しております。是非ご鑑賞ください。



SUMMER FESTA in Heiwajima に参加します

8月23日（土）・24日（日）にBIG FUN平和島にて開催される「SUMMER FESTA in Heiwajima」に参加します。心肺蘇生、AED体験や救護所の設置を予定しております。皆さま、是非お越しください。



BIGFUN
SUMMER FESTA'25
2025.8.23(SAT) 24(SUN) 10:00-17:00



病院見学会を開催します

日 時：9月6日（土）10：00～14：00
内 容：院長・脳神経内科部長による講演
病院紹介・見学、こども食堂
キッチンカー、フードパントリー等
参加費：無料

脳神経内科

院長補佐 脳神経内科部長 三品 雅洋

脳神経内科は、脳・脊髄・末梢神経・筋肉の病気を担当します。脳梗塞・アルツハイマー型認知症・パーキンソン病・多発性硬化症・ギランバレー症候群・封入体筋炎などがそれに該当します。昔は治せない病気ばかりでした。しかし数年で治療法が変わりました。脳梗塞に対する血栓除去療法、球脊髄性筋萎縮症に対する男性ホルモン抑制療法、ファブリー病・ポンペ病に対する酵素補充療法が実現しました。アルツハイマー型認知症・パーキンソン病や多発性硬化症、重症筋無力症、片頭痛の治療薬も新たに誕生しました。リハビリテーションや介護の方法も進歩しました。認知症患者の症状悪化も、薬以外の方法で軽快できることがあります。私たちは、東京労災病院の全スタッフだけでなく、近隣のクリニック、リハビリテーション病院、薬局、介護施設、ケアマネージャー、行政、企業と連携し、これら難病に立ち向かいます。

認知症について

脳のダメージによりいったん正常に発達した知能が低下した状態を認知症と言います。症状は物忘れ・日時がわからない・以前と違い怒りっぽくなった・道に迷うなどがあります。アルツハイマー型認知症が有名ですが、下図のようにたくさんの疾患があります。レヴィ小体型認知症、嗜銀顆粒性認知症、進行性核上性麻痺など様々な疾患があります。特に、甲状腺機能低下症・ビタミン欠乏・感染症など治せる病気は見逃してはいけません。知能検査のほか、採血・CT/MRI・脳血流SPECTなどの検査を実施します。治せない疾患でも、薬の選択、介護の方法などで症状の悪化を防ぎます。症状が軽いけれども認知症かどうかを知りたい場合でも受診してください。運転免許の更新で認知症が疑われた方の診断を明確にするための診察も可能です。



三品雅洋：CI研究 42(3-4) 147-152, 2020

脳神経外科

脳神経外科部長 加藤 宏一

脳腫瘍の手術と術後加療

「守られている脳」

脳は生物にとって重要な臓器であり頭蓋骨に守られています。脳は頭蓋骨に囲まれた空間にあるため、脳腫瘍や脳出血など正常では存在しないものが生じると、頭蓋内圧が上がり正常な脳を圧迫し損傷させます。重症では脳ヘルニア状態になり死亡するため、病変を除去し頭蓋内圧を下げる手術が必要になります。

「脳を守る」

脳腫瘍の摘出手術では頭蓋骨内の圧を低下させ、正常な脳や神経を守ることが目的になります。手術前には脳機能MRIで運動に関わる神経走行を同定し、3D-CT、脳血管造影検査などの結果を組み合わせ、脳の機能を維持するための詳細な手術プランニングを行います。できるだけ脳腫瘍を摘出し、正常脳の機能を維持させるための安全な開頭やアプローチ法、摘出操作が重要になります。

当院では最新のナビゲーションシステム、脳神経モニタリング装置、術中O-arm(CT)を導入し安全で確実な手術を行っています。手足の動き、顔や舌の動き、視覚、聴覚、脳幹の反応などを手術中に調べることが可能です。

脳腫瘍の病理診断結果により、手術後は放射線治療、化学療法が必要になることがあります。放射線治療装置もTrueBeamという脳の病変に線量を集中させ、正常脳への影響を少なくする新しい機器を使用しています。化学療法も現在は通院で行っています。副作用が少なく、日常生活や仕事に支障が生じないよう薬剤調整を行っています。

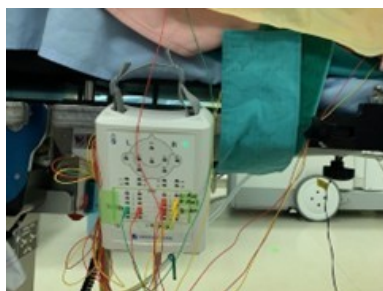
手術風景



① O-armを使用した術中CT、ナビゲーション



③ 顕微鏡下の手術



② 術中神経モニタリング